

ドイツにおける スタートアップ企業の動向

トレンド：環境技術（脱炭素化）

2022年5月

デュッセルドルフ

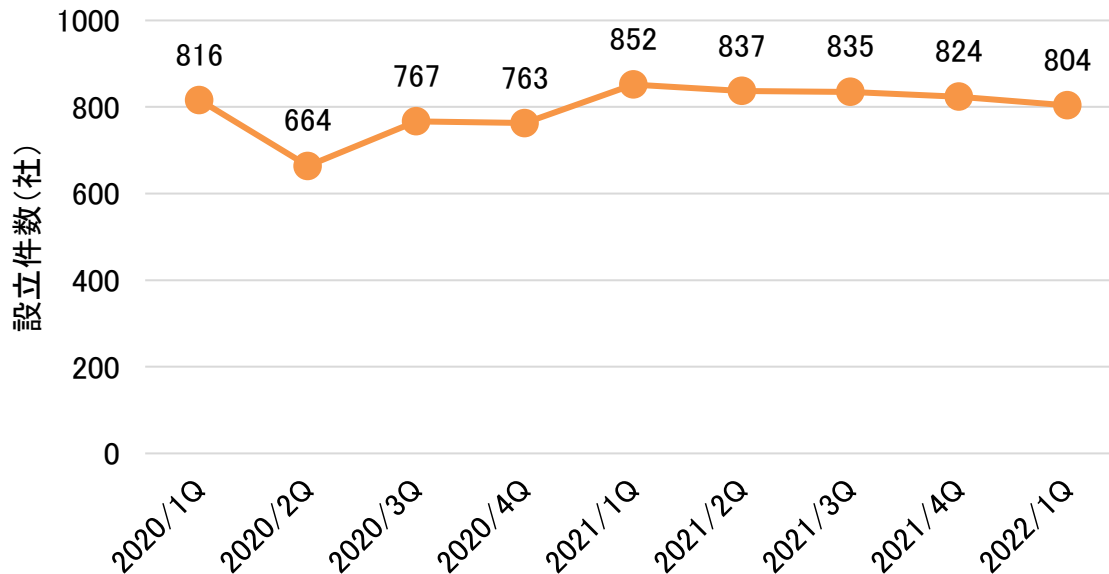


スタートアップ設立件数の推移

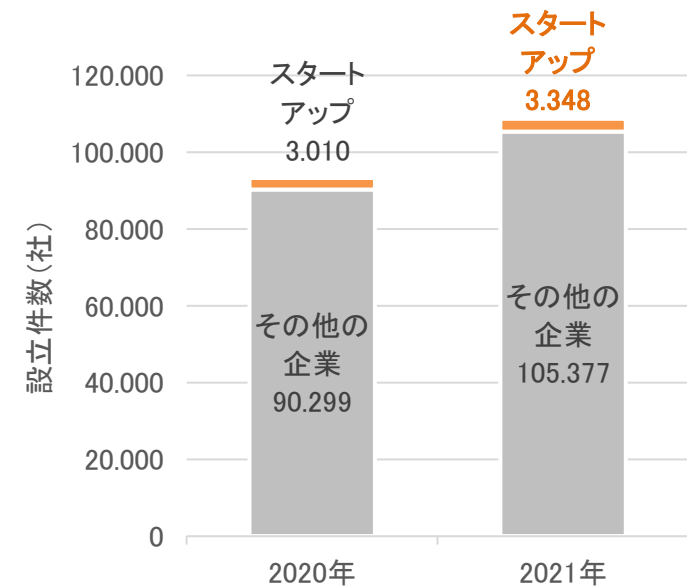
新たに設立された企業全体の3%がスタートアップ

- (ビジネスモデル、製品・サービス、高い成長可能性の点で革新的な特徴を持つ) **スタートアップ企業は、ドイツで新たに設立された企業全体の約3%**を占める
- パンデミックの最初の年(2020年)はスタートアップの設立件数が減少したが、2021年以降はどの四半期でも800社を超えるスタートアップがドイツに設立されている

ドイツにおける**スタートアップ**設立件数の推移



ドイツにおける
全ての企業の**設立件数**

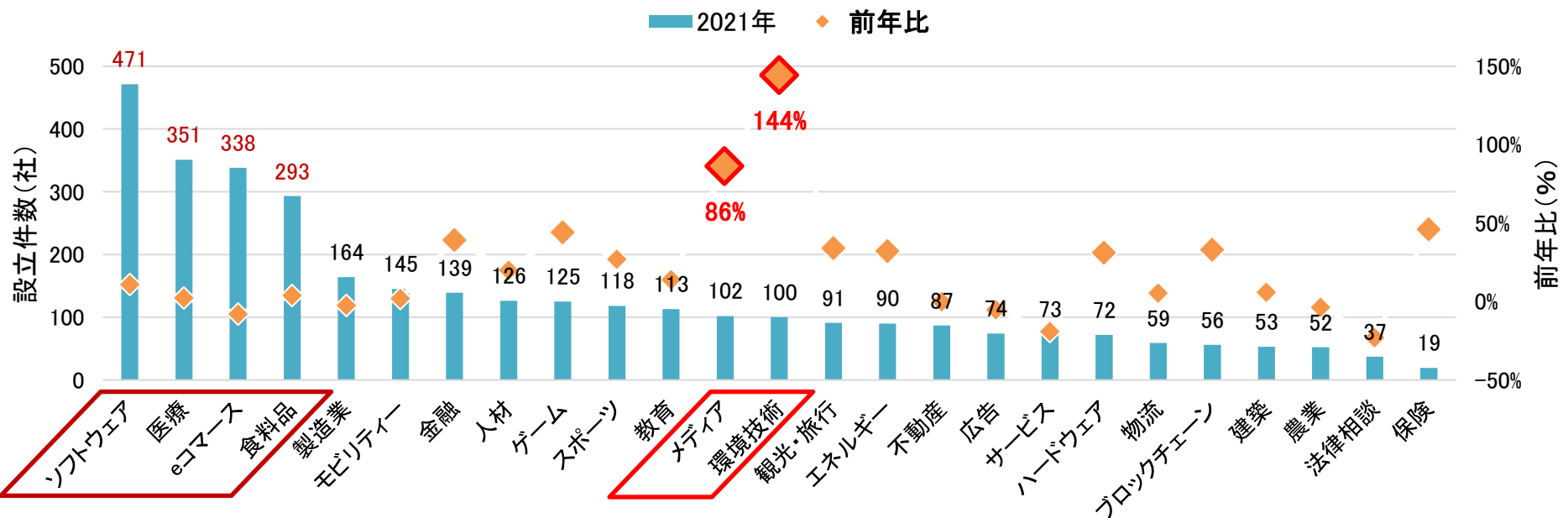


業界別のスタートアップ設立件数

環境技術への関心が高まる

- ソフトウェア、医療、eコマース、食料品分野のスタートアップ企業の設立件数が多い
- 前年と比べて**設立件数が急増した分野は、環境技術とメディア**

ドイツにおけるスタートアップ設立件数(業界別; 2021年)



出所: Handelsblatt/startupdetector

トレンド：脱炭素化

デジタル化に続く、次のイノベーショントレンド

- 環境技術分野のスタートアップの間で特に人気のあるテーマは、**炭素の追跡(カーボントラッキング)**

脱炭素化のスタートアップの例

Pina Earth社(ミュンヘン)

- **航空写真とAIを用いて、森林(植林面積)が吸収できる炭素の量を特定**する
- このデータを基に、森林の所有者はPina Earth社のオンラインマーケットプレイスでCO2証明書を販売できる
- 森林の所有者に見返りを与えることで、**持続可能な林業を奨励**できる



「過去20年にわたるデジタル化のトレンドに続く、**次の大きなイノベーションの波は産業の脱炭素化**かもしれない」

ドイツで最もアクティブなベンチャー投資会社
HV CapitalのJan Miczaika/パートナー

「**CO2消費量のデータ収集と管理**は過去2年間で一層重要になった。

市場には需要がある。我々のファンドに参加する**製造業の企業はこのテーマに膨大なリソースを注ぎ込まなくてはならず、市場は巨大だ**」

ドイツで非常にアクティブな半公共のベンチャー投資会社
High-Tech Gründerfonds (HTGF)のRomy Schnelle/パートナー

トレンド：メディア、保険

メタバース、eコマースの影響

- 仮想空間「メタバース」への膨らむ期待が、メディア、ゲーム、ブロックチェーン分野のスタートアップの増加にも影響を与えている

- 金融（フィンテック）や保険（インシュアテック）のスタートアップの増加は、（コロナ危機で再び注目が高まった）eコマースとも関係がある

メディア分野のスタートアップの例

Articlett社（カールスルーエ）

- 新聞・雑誌など各種メディアの（無料と有料の）コンテンツを1つのアプリに束ねる
- 様々な異なる視点・見方を比較できるよう、AIを用いて、同じテーマを扱う（ソースの異なる）全ての記事を束ねる
- 例えば、1ヶ月25,000ワードまでの「ワードサブスクリプション」として提供する

Articlett

保険分野のスタートアップの例

Hakuna社（ミュンヘン、ベルリン）

- オンラインショップ向けの保険ソリューションを提供する
- オンラインショップが（高価な）製品を販売する際に付加価値として、各製品に適した「組込み保険」（保証の延長、盗難保険など）を提供できるようにする
- APIファーストのプラットフォーム上で自動的に、適した保険商品と持続可能な修理・交換のソリューションを組み合わせ、提供する

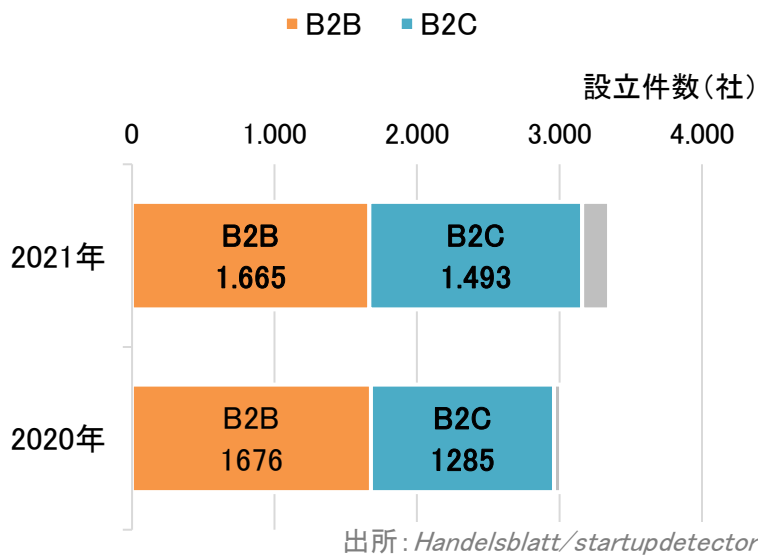
hakuna.

ビジネスモデル、ターゲット層

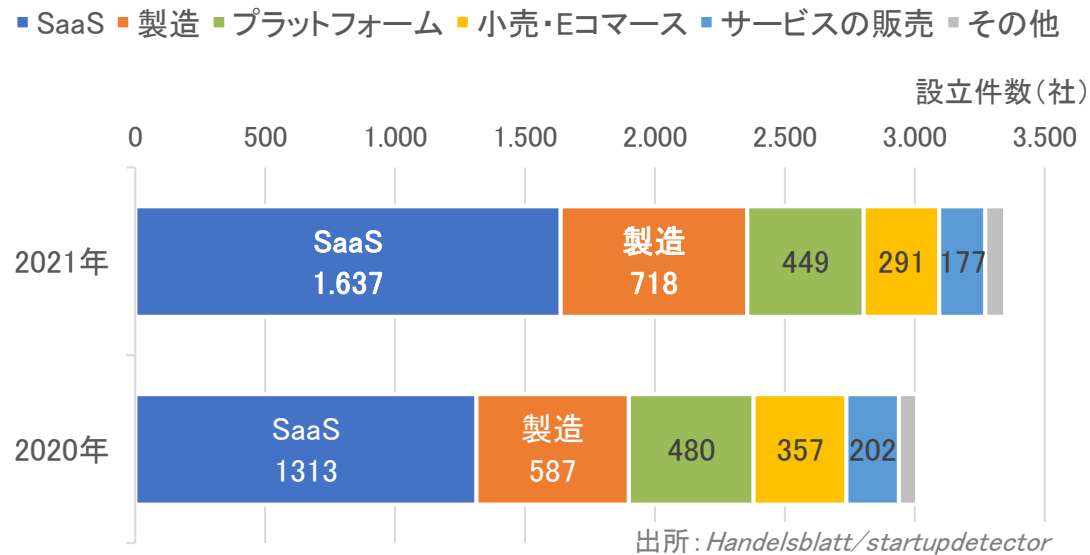
B2B分野でSaaSが主流

- ドイツは伝統的に**消費者よりも企業を顧客とするビジネス**に強い。現在でもB2B分野のスタートアップのほうが多いが、最近ではB2C分野のスタートアップが増加している
- 創設者の間で最も人気のあるビジネスモデルは「Software as a Service (SaaS)」。サブスクリプションベースでソフトウェアを販売するため、計画可能で定期的な収入が見込める利点がある

ドイツにおけるスタートアップ設立件数
(ターゲット別; 2021年)



ドイツにおけるスタートアップ設立件数
(ビジネスモデル別; 2021年)



スタートアップ設立の地理的分布

ベルリン、ハンブルク、南西部の州に多い

ハンブルク

人口10万人あたりのスタートアップ
設立件数(2021年): 12社

デュッセルドルフ市(NRW州)

人口10万人あたりのスタートアップ
設立件数(2021年): 14社

フランクフルト市(ヘッセン州)

人口10万人あたりのスタートアップ
設立件数(2021年): 13社

ハイデルベルク郡(BW州)

人口10万人あたりのスタートアップ
設立件数(2021年): 16社

カールスルーエ市(BW州)

人口10万人あたりのスタートアップ
設立件数(2021年): 14社

ベルリン

人口10万人あたりのスタートアップ
設立件数(2021年): 20社

ミュンヘン市(バイエルン州)

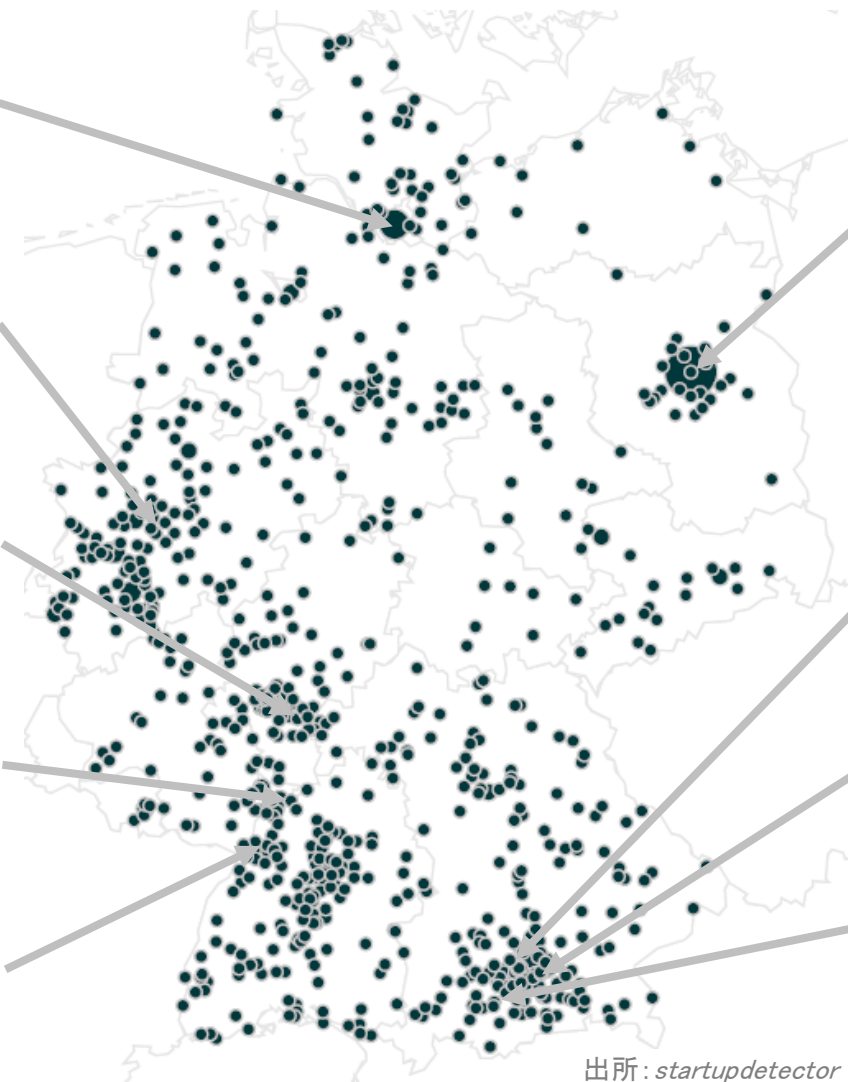
人口10万人あたりのスタートアップ
設立件数(2021年): 17社

ミュンヘン郡(バイエルン州)

人口10万人あたりのスタートアップ
設立件数(2021年): 13社

Starnberg郡(バイエルン州)

人口10万人あたりのスタートアップ
設立件数(2021年): 21社



出所: startupdetector

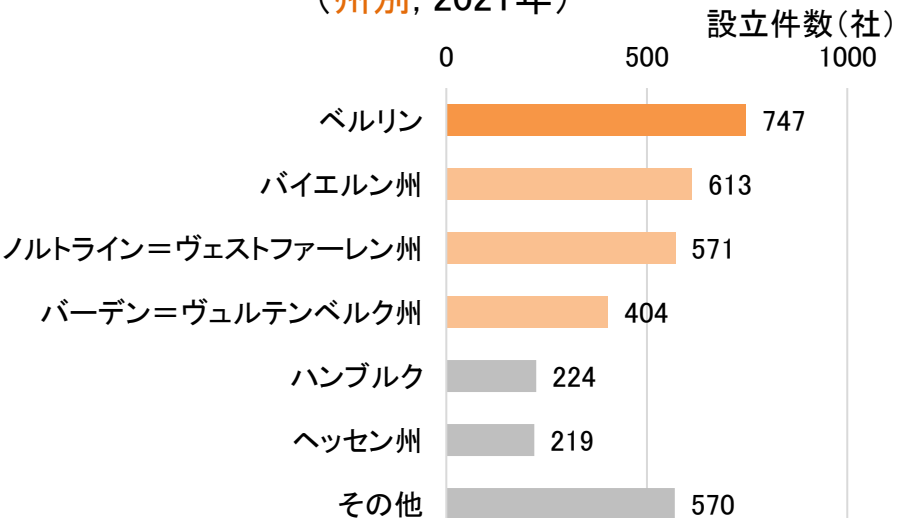
スタートアップ設立の‘ホットスポット’

大学都市で‘スタートアップ密度’が高い

- (スタートアップの‘メッカ’として知られる)ベルリンに加えて、西ドイツ各地の大学都市も‘ホットスポット’になりつつある。特に理工系・医学系の有力な大学がある都市はスタートアップの密度が高い
- 各都市の大学の重点分野が、その地に設立されるスタートアップの分野にも反映されている
 - 例①: 医学の研究で人気があるハイデルベルクでは、新しいスタートアップのほぼ半数が健康分野に重点を置く
 - 例②: 有名な工科大学(KIT)があるカールスルーエでは、技術集約型のスタートアップが多い

ドイツにおけるスタートアップ設立件数

(州別; 2021年)



出所: startupdetector

「テレワークへのシフトにより、特に創業段階では立地の重要性は小さくなっている

優秀な人材を惹きつけたいのであれば、ベルリンにはまだ大きな利点がある

小さな町に設立したスタートアップ企業では、各地に(小規模の)新しい事務所を素早く開設して、従業員に様々な勤務地を提供できるようにしている」

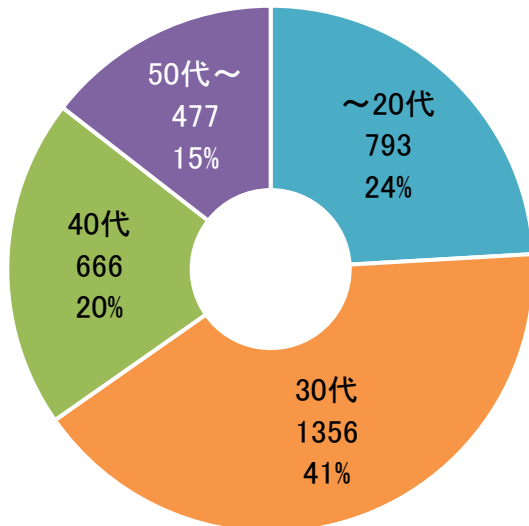
ドイツで最もアクティブなベンチャー投資会社
HV CapitalのJan Miczaikaパートナー

経営者（創設者）の年齢

40代や50代でもスタートアップ設立

- (2021年に設立された)スタートアップ企業では30代の創設者が最も多い
- 最年長の創設者がまだ20代(もしくは10代)のスタートアップも約4分1ある
- 前年と比べて、40～49歳の創設者の割合が大幅に伸び、2021年に設立されたスタートアップの**5分の1では最年長の創設者が40代**である

ドイツにおけるスタートアップ設立件数
(最年長の創設者の**年齢層別**; 2021年)



出所: Handelsblatt/startupdetector

「経験上、**40歳以上の創設者が成功する確率は若い創設者よりもかなり高い**

いくつものベンチャー事業を次々と立ち上げてきた、**経験豊富な起業家であることがある**

もしくは、**各業界で専門的な経験を積んだ後に起業した人達だ**。すでに自分の市場をよく知っており、安定した企業でのキャリアを捨てて、会社を設立するリスクを熟考した上で選んだ人達たちだ」

ドイツで最もアクティブなベンチャー投資会社
HV CapitalのJan Miczaikaパートナー

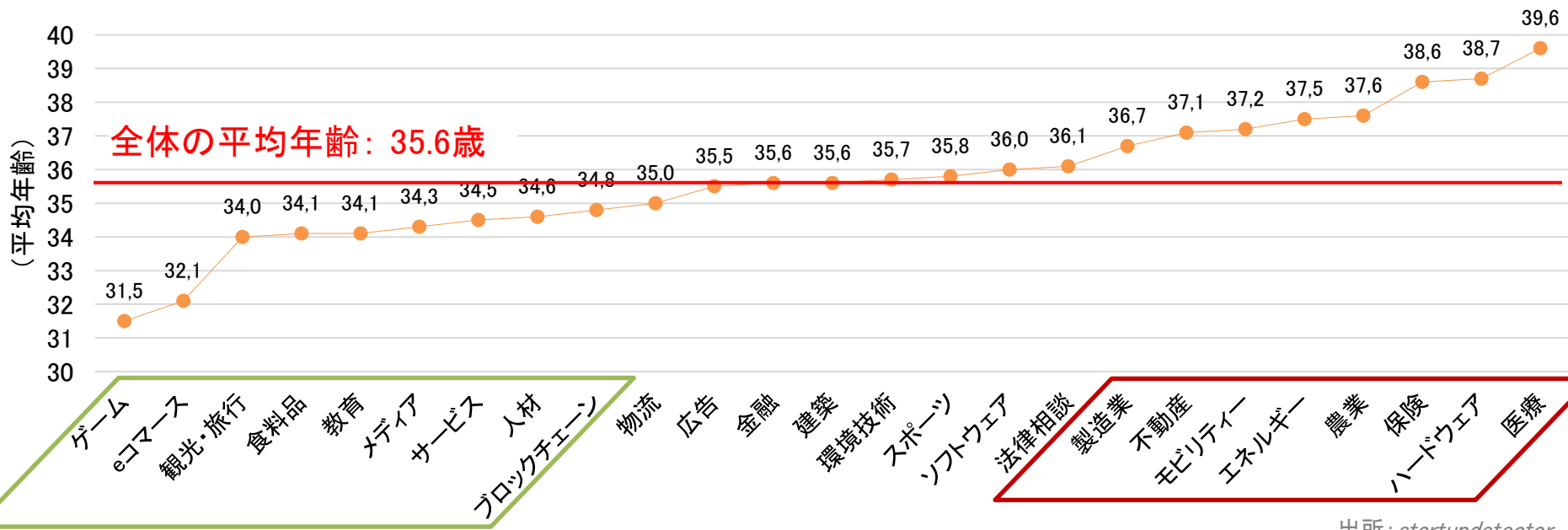
業界別の経営者（創設者）の年齢

ゲームやeコマースは30代前半、ハードウェアや医療では30代後半

➤ スタートアップ企業の経営陣の平均年齢は、業界によって異なる

- 経営陣の平均年齢が最も低いのは、ゲーム（31.5歳）とeコマース（32.1歳）のスタートアップ
- 経営陣の平均年齢が最も高いのは、医療（39.6歳）、ハードウェア（38.7歳）、保険（38.6歳）のスタートアップ

ドイツにおけるスタートアップ設立時の創設者の平均年齢
業界別（2021年）



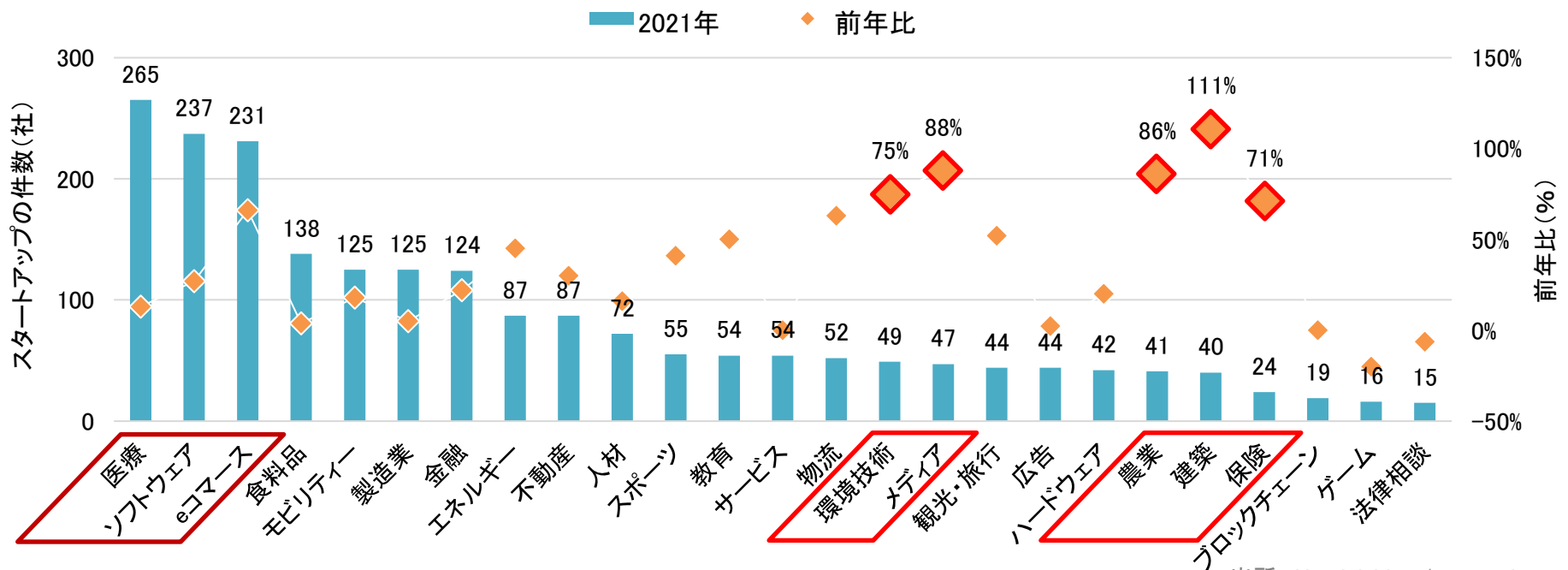
出所: startupdetector

外部から資金調達したスタートアップ

持続可能性の関連分野がトレンド

- 2021年に(国内外の)外部の投資家から資金調達したスタートアップ企業の数、2,087社(前年比27%増)
- 投資家は、CO2排出と資源保護に大きなチャンスがあるとみている。環境技術の他、(資源・エネルギーを大量に消費する)建設と農業分野で資金調達したスタートアップが増加

外部の投資家から資金調達したドイツのスタートアップの件数
業界別(2021年)



出所: Handelsblatt/startupdetector

投資トレンド：建設、農業

デジタル化とグリーン化

- 建設と農業はデジタル化とは縁が薄い分野とみられていたが、最近になって投資家の注目を集めている

「建設分野への投資の背景にあるのは、ドイツにもっと多く、もっと効率的に、**もっと環境にやさしく建設**すべきというトレンドだ」

ドイツで最もアクティブなベンチャー投資会社
HV CapitalのJan Miczaikaパートナー

「農業分野には、**生産性と資源利用の効率を改善する大きな潜在性**がある」

ドイツで非常にアクティブな半公共のベンチャー投資会社
High-Tech Gründerfonds (HTGF)のRomy Schnelleパートナー

ベンチャー投資会社HV Capitalが投資している 建設分野のスタートアップの例

Alasco社(ミュンヘン)

- **建設プロジェクトの管理をデジタル化**するソフトウェアを提供する
- 建設会社は、請求書、建設許可証、持続可能性証明書などを把握・監視できる

ベンチャー投資会社HV Capitalが投資している 農業分野のスタートアップの例

Agvolution社(ゲッティンゲン)

- 様々なデータに基づき、**肥料の使用を経済性と気候保護の観点から最適化**する

Farminsect社(Oberbergkirchen)

- 農家が**(家畜の飼料として)昆虫の幼虫を飼育するための自動化されたソリューション**を提供する